

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
経営組織論 Organization Science	2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
2単位	講義	選択 上級ビジネス実務士選択必修 ビジネス実務士選択必修	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
技術戦略経営、地域社会起業家論			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、経済学			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館 2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)	授業中に指示します
授業の概要			
経営組織論では企業組織を中心に、経営組織の生成発展からさまざまな組織理論を学習し、組織の合理性、有効性を追求しながら、グループワークによるプレゼンテーションを通して、理論と実務を検討し、常に現代的課題解決の方法を見出す「ソリューション力」を養う。また、経営組織の理論と実務を考察し、企業人、組織人として活躍できるエンployヤビリティの育成をはかるとともに、グローバル化、ICT化する世界のなかで、経営組織の課題と戦略を自分の頭で考えさせる実践形式の学習を目的とする。			
授業の目標			
①経営学100年の歴史と経営組織論の展開、②戦略経営と組織構造、③組織と機能及びリーダーシップ、④組織文化と経営組織の設計・組織改革等の基礎知識を学習し、そのポイントを身につけられるようにする。			
授業の方法			
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、経営組織に精通した人材育成を目指すものである。			
学習の成果(学習成果)			
①「経営組織論とは何か」を第三者に説明することができる。 ②「経営組織論の展開/伝統的組織論/現代的組織論」を第三者に説明することができる。 ③「戦略経営と組織としての組織構造論」を第三者に説明することができる。 ④「組織推進力、集団としての“組織”と「機能」、リーダーシップ論」を第三者に説明することができる。 ⑤「組織文化、経営組織の設計・組織改革、業績を高める組織能力」を第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法を身につけることができる。			
授業のスケジュールと内容			
第1回目	ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)		
第2回目	1. 経営組織論とは?/経営学100年の歴史と理論家/2. 経営組織論の展開/伝統的組織論(F. W. テイラー科学的管理論/G. E. メイヨール人間関係論)		
第3回目	2. 経営組織論の展開/伝統的組織論(H・ファョールの理論/マズローの欲求5段階説/インセンティブ・システム)		
第4回目	2. 経営組織論の展開/現代的組織論(行動科学的組織論/システム論的組織論/意思決定論的組織論/経営組織と条件適用理論)/グループワークによるプレゼン(1)		
第5回目	3. 戦略経営と組織:組織構造論(基本的組織形態/実際の組織形態/トップ・マネジメントの組織と意思決定)		
第6回目	3. 戦略経営と組織:プロダクト・マネジャー制組織/カンパニー制組織/分社化としてのカンパニー制/corporate venture/グループワークによるプレゼン(2)		

第7回目	4. 組織推進力(人を動かすエンジン):経営組織におけるモチベーション理論	
第8回目	4. 組織推進力(人を動かすエンジン):シャインのキャリア・アンカー/キャリアコーン/成果主義	
第9回目	5. 集団としての“組織”と「機能」/6. リーダーシップ:経営組織におけるリーダーシップ論/グループワークによるプレゼン(3)	
第10回目	7. 組織文化:ピーターズ=ウォーターマンの「エクセレント・カンパニー(原題は“In Search of Excellence”)」	
第11回目	8. 経営組織の設計	
第12回目	9. 組織改革/グループワークによるプレゼン(4)	
第13回目	10. 業績を高める組織能力	
第14回目	11. 代表的組織論の展開を再考①/グループワークによるプレゼン(5)	
第15回目	11. 代表的組織論の展開を再考②	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準:上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
レポート	30%	Sのレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価:①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験		
発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経営組織論 2014年度版]”を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。		